

ぶらたなす

札幌市立陵陽中学校区 青少年健全育成推進会広報誌第 73 号
令和 7 年 3 月 12 日発行

★☆☆陵陽中学校区青少年健全育成推進会講演会（地域交流会）★☆☆

令和 6 年 12 月 20 日（金）に、陵陽中学校区健全育成推進会地域交流会の「講演会」が、同校の 4 階多目的室で開催されました。講師には、未来局子ども局くらし・若者支援担当課の職員をお招きしました。地域・保護者など多数の方が参加し、熱心にお話に耳を傾けていました。その講演会の一部をお伝えします。

★☆☆演題『ヤングケアラー・子どもの貧困について』★☆☆

＜ヤングケアラー＞

ヤングケアラーとは、「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」と定義されている。

【ヤングケアラーの具体例】

「家族に代わり」「幼い兄弟の世話をしている」「目の離せない家族の見守りや、声掛けなどの気づかいをしている」「アルコール・薬物・ギャンブル依存問題等の抱えている家族に対応している」「障害や病気のある家族の見回りの世話をしている」など。

【お手伝いとヤングケアラーの違い】

＜お手伝い＞

子どもが頑張ればできるようなこと。子どもが子どもとしての生活ができる範囲で行えるもの。子どもの年齢や成熟度に合ったお手伝いは、思いやりや責任を育む。

＜ヤングケアラー＞

年齢や成熟度に合わない。重すぎる責任や作業が継続している。その年齢の子どもとして想定される生活ができない。

【札幌市におけるヤングケアラーの現状】

- ・中高生の 24 人 1 人がヤングケアラー。（令和 3 年 11 月～12 月の実態調査による）
- ・つらさを感じている場合もある一方でやりがいを感じている場合がある。
- ・中高生の当事者のうち、誰かに相談した経験があるのは約 3 割。

【ヤングケアラーになることの影響】

・学校生活への影響、友人、人間関係への影響、身体面、健康面への影響、進学、就職への影響などがある。

【ヤングケアラーに気付くきっかけ】

○学校関係者

遅刻、早退が多い。保健室で過ごすことが多い。欠席が多い。不登校である。しっかりしすぎている。優等生でいつも頑張っている。

○地域関係者

学校へ行くべき時間に、学校以外で姿を見かける。幼いきょうだいの送迎をしている姿を見る。毎日のようにスーパーで食料品等の買い物をしている。ごみに関する問題が発生している。

【保健・福祉・医療分野の関係者】

・子どもへの声掛けの際に、行為自体を認め、いつでも助けを求めてよいことを伝える。子どもと家族の想いを第一に考え希望する支援は何か。利用しやすい支援は何かを共に考える。支援、相談機関の情報提供を行うことが重要である。

＜貧困＞

貧困には「絶対的貧困」と「相対的貧困」がある。後者の方が、外側から見えにくく、見付けにくい傾向にある。

子どもの貧困とは、「困りを抱えた家庭にいる」ことで、成長の節目でさまざまな機会が得られない。その結果、人生全体に影響が出るほどほかの人たちに比べて不利を負うことがある。

【子どもの貧困率】

約8～9人の1人が相対的貧困。(国に公表した数値 2022年)

【貧困による子どもへの影響】

- ・自宅で集中して勉強できる場所はなく、学習面が遅れる。家や学校以外でモデルとなる大人に会う機会がなく、将来の夢と希望を抱きにくいなどがある。
- ・問題を家族で抱え込み破綻するぎりぎりまで相談せずに、社会的孤立する傾向にある。

【国や札幌市の支援】

- ・無料の学習支援。
- ・高校、大学進学の際の返済不要の奨学金の支給。(進学機会の確保)
- ・児童手当、子ども医療費助成、2人目以降の子どもの保育料が無料。
- ・保護者の就労支援。
- ・大人や同年代との交流をすることで、「生きる力」を育む。
- ・家庭ではできない体験機会。



今回の講演会を通して、札幌市におけるヤングケアラーと子どもの貧困についての実態を知ることができました。また、一人で悩みを抱え、孤独になりがちな状況をいかに周囲の人たち（学校、家庭、地域、関係機関など）が気づき、寄り添うことが重要であることが分かりました。

日本におけるヤングケアラーや子どもの貧困への支援は、最近話題に取上げられてきました。講演会を通して、子どもが子どもらしく生きることができる社会にするためには、私たち一人一人が理解を深め、その輪を広げることが大切であることを改めて学びました。